

第2回魚津市学校教育審議会会議録

魚津市学校教育審議会
平成25年11月7日(木)

第2回 魚津市学校教育審議会会議録

1 日 時 平成25年11月7日(木) 19:00から20:50まで

2 場 所 魚津市役所第一分庁舎会議室

3 出席者

【審議会委員】

大 愛 高 義 (魚津商工会議所 副会頭)
大 城 克 明 (魚津市PTA連合会 会長)
岡 本 安 克 (魚津市自治会連絡協議会 会長)
小 澤 英 子 (魚津市民生委員児童委員協議会主任児童委員)
笹 田 茂 樹 (国立行政法人富山大学人間発達科学部准教授)
坪 崎 千 夏 (公 募 上野方小学校PTA会長)
中 田 進 (富山県公民館連合会理事)
濱 元 郁 子 (保育所・保護者代表 大町幼稚園保護者)
元 野 雅 樹 (新川青年会議所理事長)
山 浦 春 美 (魚津市立大町小学校 校長)

【事務局】

長 島 潔 (教育長)
川 岸 勇 一 (次長兼教育総務課長)
八倉巻 清 彦 (学校教育課長)
江 田 直 樹 (教育総務課総務係長)
武 田 菜穂子 (学校教育課学校教育係長)
石 坂 留 美 (教育総務課総務係主査)
明 石 主 計 (教育総務課総務係主任)
松 倉 貴 宏 (教育総務課総務係主任)

4 審議会内容

(1) 挨拶(長島教育長)

皆様、お疲れのところ、また、足元の悪いところご出席いただきまして誠にありがとうございます。さて、第1回目の審議会ではこれまでの経緯・現状、魚津市の目指す教育、適正化に向けての基本方針について審議していただきました。今日は第2回目ですが、前回の内容を踏まえて、今後の具体的な枠組み等について検討していただきたいと思います。なお、10月28日(月)には、学校現場を視察していただきまして、本当にありがとうございました。視察の感

想等も含めまして、議題の検討をよろしく申し上げます。

(2) 第1回学校教育審議会の会議録について

【会 長】

前回到引き続き議事進行を務めさせていただきます。さて、前回の会議では、小中学校の児童生徒数の現状、学校規模にかかる諸問題、規模の適正化に向けての基本方針について事務局より説明を受けました。そこで、皆さんに確認していただいたうえで、12学級以上の規模が適正であるとの合意を得ました。本日は第1回目の審議会の議事録を確認していただいた後、10月28日(月)に実施した学校視察について、各委員から出された意見を報告していただき、最終的には学校統廃合の具体的な枠組みについて議論していただきたいと考えております。委員の皆様には積極的なご意見をいただければありがたいと思っております。それでは、第1回目の議事録について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

お手元に第1回目の議事録をお配りしております。前回、確認していただきましたように、各委員の発言については、A委員、B委員という形で、どなたが発言したものが判らないように掲載させていただいております。また、発言については、要約したものとしておりますのでご了承願います。

会議録は、各委員に確認していただいた後に公表すべきものですが、速やかに市民の皆様公表した方が良く、事務局で作成したものを会長に確認していただき、公開することとしております。魚津市ホームページに既に掲載しております。今後も同じ方法で行いたいと考えておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

【会 長】

ただいま事務局より説明がありましたが、何かご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

※委員より発言なし

(3) 議事

【会 長】

それでは審議事項に入ります。学校視察の感想について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

「学校教育審議会学校視察の感想」について説明 配布資料8

※説明内容は記載省略

【会 長】

ただいま事務局より説明がありましたが、何かご意見、ご質問等がございましたらお願いします。視察に行っていない委員で質問等があればお願いします。

【A委員】

(学校視察で配布された資料によると) 西布施小学校では3人の児童が作文コンクールで表彰されているが、何か特別なことを学校でおこなっているのか。

【事務局】

担任の力が大きいものと思っている。何か特別なことを行っているとは聞いていない。

【B委員】

私は都合が悪く参加できなかったのだが、参加した委員にお聞きしたい。学校視察の場で、(過小規模校では)「もっと友達がほしい。」とか、規模の大きいところでは、「いじめがあった。」や「先生が意見を聞いてくれない。」など、直接子どもたちから感想等、聞いているのか。

【F委員】

授業中であつたので聞いていない。他の委員も同じだと思う。

【会 長】

話を聞く状況にはなかつた。

【B委員】

分かりました。

【会 長】

私の印象では、西布施小学校については少人数できめ細やかに指導されており、非常に良いと思つたが、複式授業になるとかなり先生も子どもも、教育環境面で厳しい感じがした。先生があっちへ行ったりこっちへ行ったりと、落ち着いて授業を受ける状況ではないという印象を受けた。また、適正規模である本江小学校では、活気に溢れていた印象を受けたが、これ以上大きな規模になると、感想にもあるが、「先生の目が行き届かなくなるのでは。」とも思つた。大町小学校に関しては、非常に落ち着いた環境で授業を受けていたと思つた。

【I委員】

かつて魚津市では、坪野小学校のみ複式学級であつた。教員側の立場で述べるが、複式学級の学習指導については、研修を行っていない。そのため、坪野小学校に赴任した教員のみ複式学級の経験がある。「複式学級の授業はどうやって行ふのだろう。」と悩みながら行っているのが現状である。複式学級はどんどん増えてきているのだが、複式指導に関するベテラン教員はいないということが現実である。

【会 長】

西布施小学校の場合、常勤講師が複式学級を担当(サポート)している。複

式学級に関してだが、マニュアルとかは特になく、その学校内で教え方等、伝承しているのか。

【I 委員】

複式指導のマニュアルは存在する。複式学級は異なる学年の子どもたちを指導するため、一方に直接指導を行っている時は、もう一方は間接指導として自習することとなる。直接指導と間接指導の繰り返しを1時限の間に、3から4回行うというのが、複式学級のマニュアルである。そういう指導法を経験している教員は少ない。

【会 長】

実際は、赴任して初めて経験するというのが現状であるということか。

【I 委員】

そのとおり。

【会 長】

次に、地区別児童数の将来推計について、事務局より説明願います。

【事務局】

「地区別児童数の将来推計」について説明 配布資料9

※説明内容は記載省略

【会 長】

配布資料9について説明があった。平成31年度までは、実際に生まれている子どもの数であるため、転居等がなければ、この数で推移するが、平成35年度に関しては、これまでの減り方等を考慮した推計であり、不確定要素があるとのことであった。事務局の説明に何かご質問等があればお願いしたい。

【F 委員】

吉島小学校と経田小学校には天神地区の児童が150名いるのだが、吉島小学校の111名や、経田小学校の39名は、そのまま平成35年度まで続くとの見方で良いのか。

【事務局】

この推計は、あくまで現在の学校規模がどのようになるかという観点で作成している。そのため、天神地区の児童は吉島小学校と経田小学校に分かれたままとなっている。

【会 長】

B委員は前回の審議会で、平成35年度までの児童数の推移及び推計の資料を求められたが、何かご意見はありませんか。

【B 委員】

意見や質問ではないが、「ほとんどクラス替えもできず、また、複式学級も多くなるのだな。」という実感である。(平成35年度では)道下小学校は290名12学級とあるが、これだと、1クラス20数名となり、クラス人数も少ない。その先を見通すと、「もっと恐ろしい事が見えてくるな。」という感想を持った。

【会 長】

他の委員のご質問等があればお願いします。特になければ、次に移らせていただきます。

【会 長】

次に、具体的な学校統廃合の枠組みについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】

「具体的な学校統廃合の枠組み」について案の1、案の2、案の3について説明 配布資料 10

※説明内容は記載省略

【会 長】

具体的な案が事務局より提示された。何かご意見があればお願いします。

【C委員】

「4校統合案が最もふさわしいのでは。」と説明を聞いて感じた。10年先を見据えて4校としたと思われる。しかし、20年先にもう一度編成しなおさなくてはならないという不安はないのか。

【事務局】

現在の学級編成基準は、1年生2年生については35人となっているが、既に文部科学省では全ての学年で35人学級とする検討がなされている。将来的にはさらに進んで30人になっていくことも予想される。それを踏まえると、20年先までは4校案でも複数のクラス編成が継続されるのでは、と考えている。それ以上先になると、松倉小、上中島小、住吉小の統合校や道下小と経田小の統合校については、学年によっては複数クラスにならないのでは、との思いもある。しかしそれ以上に、一挙に2校に統合した場合、10年後、あるいはその少し先まで、大規模校が継続されることで生じる、子どもたちへの不安のほうが、教育委員会では重視している。

【B委員】

バランス的には4校統合案が良いのではと感じる。本江小、道下小、吉島小は現在の校舎を利用するとのことだが、松倉小、上中島小、住吉小の統合校は新しい校舎を建てないと難しいと考えているのか。

【事務局】

松倉小、上中島小、住吉小の統合校については、12 学級だと既設校では対応できない。例えば、一番児童数の多い住吉小を活用する場合は増築することとなる。しかし、老朽化している校舎を増築するよりも、思い切って新しい学校環境を皆さんに提示して整備したほうが良いのではと考えている。

【B委員】

先ほどC委員も話していたが、最終的には、この2校を（西部地区統合案2校）1校に統合していく可能性も残されている。その時は、小中一貫校など考えれば良い。しかし、新築してしまうと、どうしても新しいものを残していかなくてはならないという議論が出てくるかもしれない。私は次のステップを見越して、耐震性が備えてある既設校舎を増築して対応することを考えてみてはどうかと思う。将来、西部地区1校、東部地区1校となる可能性を考慮されてはいかがか。

【会 長】

ただいまの意見に事務局はどのように思うか。

【事務局】

これまでの経緯だが、当初からこの3校（松倉小、上中島小、住吉小）を統合する計画があった。しかし、坪野小学校と松倉小学校を統合する時に、松倉地区と上中島地区から、「次ぎの段階で、住吉小学校へ行くのは絶対に反対だ。」という強い意見が出された。たしかに、I委員がおっしゃるように、既設の住吉小学校を拡張して対応することは考えられるが、住民感情を考慮したときに不安がある。

【F委員】

今、議論されているのは、平成35年度を一つの目安とされている。20年後には1,100人程度になると資料（前回配布資料3）にある。学校を再編し新しく建てるとなると、すぐに5から6年は経過する。そうすれば残りは15年となる。15年とはあっという間だ。今の段階では、1,100人を着地点として検討すべきである。1,100人だと、西と東で500人から600人の学校となる。しかし、10年後にまた見直しということになると、両地区で1校ずつというのは理想かもしれないが、現実性に乏しいものと感じる。現段階では、私は4校が20年後を見据えたとしても適当であると考えている。

【会 長】

F委員の意見では、20年後であっても、4校が適正であるとのことか。

【F委員】

20年後でも4校が適正であると思う。20年後には素晴らしい団地などができて（児童数が）増える地区も出てくると思う。私の住んでいる地区は40年前に

学校統廃合があった。地区に 1,100 人しかいなかったのだが、今は 2,600 人に増えている。増えるところもあれば減るところもある。20 年という期間は大きな変化があるものだ。そういうことも考慮して検討すべきである。

【B 委員】

この統合案は地区ごとに編成されているが、案を作成される段階で地区を分断することについて検討されたのかお聞きしたい。

【事務局】

審議会の議題の一つに、通学区域について検討していただくことになる。事務局から提示した統合案については、校区の分断は想定していない。

【B 委員】

平成 35 年度を見越すと私は統合案の 2 である、4 校が適正だと思っている。20 年、30 年後の将来は再び見直していけば良いと思っている。また、通学区域については子どもたちの安全を第一に考えていくべきだ。

【会 長】

今まで出された意見は、「この案が良い。」というものであったが、他に「こういう考え方はないのか。」といった意見でもあればお願いしたい。

【A 委員】

かなり広域で統合するということになのだが、スクールバスは大きな交通手段となる。教育委員会は交通手段についてどのように考えているのか。

【事務局】

具体的に、どのようにバスを配置するといったことは検討していない。小学校の通学区域は 4 km が目安となっている。一律に 4 km で配置するということは行わないが、かなり通学距離が遠くなれば、地区のコミュニティーバスの活用や、新たなスクールバスの路線を設定する等、適切に対応していきたい。

【会 長】

今のところ、各統合案で、バスを活用しなければならないと分かっているのであれば示していただきたい。

【事務局】

次回の審議会で、図示にて説明させていただきたい。

先ほども話したが、文部科学省では、小学校の通学区域は 4 km とする基準を設けている。しかし、今まで目の前に学校があったのに、(統合により) これから 3.5 km とか 3.8 km とかになって、「そんなに遠くに歩かなくてはならないのか。」といった意見も出てくると思う。そのため、徒歩を中心に考えながら、スクールバスは必ず対応していかなければならないものと考えている。

また、先ほどB委員から地区についての意見が出されたが、平成21年に基本計画を策定した際に、「地区を割ることだけは止めてほしい。」という意見が大変強かった。学校統廃合についても、ある程度年配の方々を中心に、今でも「反対である。」という意見は少なからずある。だんだん時代が変わり、学校統廃合を進めなければならないという意見は浸透してきているが、やはり学校統廃合について反対であるという方がいる中、さらに地区を割ることになると強い反対が出ると予想される。地域の方の思いを考慮して、地区は原則として割らないが、通学区域の選択幅を今よりも若干、弾力化して対応していくこととしたい。

【会 長】

スクールバスの利用等については、もう少し統合案を絞り込んでからということではよろしいか。

【F委員】

スクールバスについてだが、市内に市民バスが6ルート走っている。また、他に片貝地区だけ走っているものもあり、合計7ルートある。走っていないのは西布施地区のみ。これは、地鉄バスが通っており、中学生には非常に便利である。小学校の配置によって若干異なってくると思うが、市民バスを十分に活用していけば、残りのエアポケットだけを検討すればよいと思う。第一は市民バスを利用する等、知恵を出せばよいと思うので、それほどスクールバスについては心配しなくて良い。

【事務局】

坪野小学校と松倉小学校が統合したときに、「坪野地区のコミュニティーバスを活用したい。」と、地域の方々から申し出を受けた。そこで、坪野小の子どもたちは、地区のコミュニティーバスをスクールバスとして活用している。付け加えてだが、当時、坪野小学校の保護者より「子どもたちを学校の前まで送らなくて良い。足腰が弱くなるため、歩かせたい。少なくとも、松倉小学校の子どもたちが歩いているのに、それを尻目にスクールバスで通学することはしたくない。」という、自主的な意見が出された。そのため、現在、スクールバスは（坪野地区から）観音堂の交差点までとし、そこから、子どもたちは松倉小学校へ歩いて通学している。

【会 長】

スクールバスについての意見が続いているが、他にありませんか。

【C委員】

少し荒っぽい意見だが、4校統合案を進めていく際に、賛成するのは（拠点校となる）4地区だけであり、残りの8地区は反対が予想される。個人的な意見だが、例えば住吉小学校とか、名前を残すと揉める原因となるので、学校の

名前を変えてしまつては、ある程度年配の方は、理解すると思われるのだが、非常に荒っぽい個人的な意見を述べさせていただいた。

【事務局】

提示した統合案は、どこかの学校がどこかの学校に吸収されるというものではない。既設の学校を利用してでも、新たな学校としてスタートするものと考えている。そのため、仮に4校となつても、学校名は4校とも新しいものになる。

【C委員】

そう願いたい。

【会 長】

他にご意見はありませんか。

【F委員】

提示された統合案の2（4校案）に固まりつつあるのだが、学校の枠組みを見直すということはないのか。統合案の2（4校案）で、大町小、村木小、上野方小、本江小で統合となっているが大きすぎるのではないか。

【事務局】

冒頭、事務局から申したとおり、委員の方々より提示した統合案の枠組みについてご意見があれば伺いたい。

【F委員】

個人の意見だが、松倉小、上中島小、住吉小について、非常に至近距離にある。これに大町小を加えてみてはどうか。距離的に見ても問題ない。検討してみてもどうか。

【事務局】

大町小学校と村木小学校で統合校という現案もあり、また、歴史的にも、大町地区と村木地区は旧魚津町であり、結びつきが強いなど、地域性も考慮して提示させていただいた。F委員が述べたとおり、地理的に大町地区は住吉地区に近いのではというご意見も当然ある。今述べられた案も一つの方法でもあり、また、事務局としては通学区域の弾力化で対応することも一つの方法であると考える。しかし、歴史を踏まえると、実際に各地区に説明に向いたときに、いろんな意見が出るのではと思っている。

【F委員】

地域に関わる仕事をしている私にとって、校区を割ることだけは絶対にしてほしくないとの思いがある。私の地区は学校がなくなって40年ほど経つのだが、経田小学校と吉島小学校の両校区がある。それにより地域の活性化等いろいろな弊害もある。どのように学校が統合されようとも、校区だけは割ってほしく

ない。

【会 長】

他にご意見はありませんか。

【H委員】

提示された案を見て、私は4校案が良いと思った。私が小学生のときは600名程の学校であったが、4校になったとしても同程度の規模校は2つしかないのだなという感じがした。また、4校案でもいいのだが、松倉小、上中島小、住吉小の統合校では児童数260名であり、「今後大丈夫なのかな。」というのが正直な気持ちである。

適正化計画の目標年度について、平成31年度なり、平成30年度なり記載されているが、これは耐震整備や環境整備等々を考慮した結果と理解して良いのか。

【事務局】

そのとおりである。一番上の統合校案（**配布資料10**（統合案2））が本江小学校改築より1年遅れて平成31年度となっているのは、新設校の用地選定も含めた結果である。また、道下小学校、経田小学校の統合校を除き、いずれの案も来年度からすぐに統合に取り組んだ結果、最速で行った場合を示したものである。段階的に行うのではなく、市内全域で一斉に進めてまいりたい。

【B委員】

コミュニティーバスについてですが、本江地区には走っていない。上野方ルートを少し回してもらっている状況である。また、本江小学校区域では4km以上あるかもしれない所から歩いて通学している状況だ。

他にも、本江小学校の駐車場は極めて狭い。隣のスーパーにとっても迷惑をかけている。行事があると車がたくさん来るので、何とか考慮していただきたい。

【事務局】

本江小学校改築については、駐車場の確保等に努めた設計をしたいと考えている。ただし、運動会等、大きな行事にでも対応できるような駐車場の確保は難しいと思われる。そのような場合は、近隣住民の方に理解を求めて対応していただければと希望する。

【事務局】

学校統廃合は、数合わせだけではなく、新しい学校ができたときに、「学校環境が良くなった。」と市民に思われるものを作っていくたい。財源的にかなり厳しいところもあるが、工夫しながら進めてまいりたい。

スクールバスについては、F委員がおっしゃったとおりコミュニティーバス

を活用していきたい。空白地区については、学校統廃合に併せて市の部局と路線について十分に検討してまいりたい。

【会 長】

他にご意見はありませんか。

【I 委員】

学校統廃合から少し外れることを申し上げる。今回初めて平成 35 年度までの推計が提示された。かなりショックを受けている。平成 31 年度までは出生数の実数であるため止むを得ないが、その後の推計はできるだけ前向きに上がる状況を想像したい。この問題は「何とかなるのでは。」とと思っている。本日の新聞でも新幹線開通に絡めて「地盤沈下の魚津市」との記事があった。子どもたちが増える環境づくりや取り組みを、ぜひ、市全体として考えてほしい。魚津市の将来にも響いていくことであり、子どもたちが少なくなっていくのはとても悲しいことである。

【事務局】

少子化は非常に深刻な問題である。少子化対策は重要課題として市ではいろいろなプロジェクトチームを立ち上げるなどして取り込んでいる。市民の皆さんからも大事な意見を頂戴したい。

【E 委員】

学校統廃合で環境が変わることで、一番影響が及ぶのは子どもたちである。その子どもたちに対する心のケア等、十分に対応してもらいたい。

【事務局】

学校を実際に見られて、きめ細かい指導やのびのびと地域に育てられている子どもたちなど、小規模校の良さは十分に理解されたと思う。しかし、逆の面もあるので、このような統合案を提示した。今後、児童数が 1,100 人程度になることを見据えると、「遠い将来、2校になるのでは。」という予想もある。坪野小学校と松倉小学校を統合したとき、保護者から「これ以上、統合は避けられないのか。統合、統合、統合と繰り返していくことは、子どもたちにとって良くない。」という意見があったと聞いている。今、(2校に) 統合した場合、28 学級、24 学級等、マンモス校となる。しかも、クラス人数を今のままで計算すると、西部校下で 1 クラス 37 人、東部校下で 1 クラス 34 人となる。1 学年 34 人の 4 クラスとなると、大変圧迫感を感じる事となる。子どもたちにとっても、先生にとっても良くない環境である。かといって、問題を先送りして小さな統合を繰り返すということも子どもたちに負担となる。

提示させていただいた統合案の 2 (4 校案) では、本江地区を除き、1 クラス 25 人前後となる。先生方が 1 日に子どもたちを抱っこできる数というのは 25

人と言われている。教科のバランスから見ても、5教科は20から25人、体育や音楽など集団で行う教科は25から30人が適正なクラス人数であると言われている。そのため、E委員が心配されている「子どもたちを一人ひとりきめ細やかに見る」ということに関しては、4つの学校になったときでも、対応できるものと思われる。

また、学校統合については、県教委も、子どもたちへの配慮として「加配」という、統合校への教員増員支援を行っている。そのため、学校が少なくなると教員も減って一人ひとりに目が届かなくなるなど、手薄になるということはないと思われる。

【会 長】

今の事務局からの説明だと、教育委員会としては統合案の3（2校案）は厳しく、統合案の2（4校案）が適正だと考えているように思われる。また、これまで委員から出された意見も統合案の2が多かったようである。他にご意見はありませんか。

【A委員】

松倉小学校と坪野小学校の統合のときは、グラウンドデザインはある程度出来ていたものの、最初ということで、いろいろ地域の強い反対意見があったのかと思う。しかし、今回はしっかりとしたグラウンドデザインも出来ており、魚津市全体で考えていくのだということが見受けられる。12月市議会でこの問題は上程されるのか。

【事務局】

12月までにいただいた審議会の答申を踏まえ、教育委員会で年内に素案を作りたい。その後、議会にも報告する。年明けに市民フォーラムを開催するなどして、市民からの意見を頂戴したのち、最終的には3月までに結論を出したい。市議会には、委員会や議員協議会の場で経緯の報告や方針について説明していきたい。

【A委員】

説明する段階では、全体をしっかりと示し、同時に進行していかないと、「どうして自分の地区のみ進めるのだ。」ということになりかねない。また、出来るだけスピード感を持って行っていただきたい。

【事務局】

これまでの進め方を反省しながら、今後は、全体を同時に示しながらスピード感を持って進めてまいりたい。

【会 長】

他にご意見はありませんか。

【G委員】

私も4校案（統合案の2）が適当であると思う。地域の方が、学校がなくなると寂しくなるという気持ちも理解できるが、第1は子供たちがいかに良い環境で勉強できるかを考えるべきだと思う。そのため、反対される地域の方には子どもたちのためにということを強く訴えていけば、いずれ理解してもらえるのではと考える。

【会 長】

そうですね。子どもたちのことを第一に考えるという、基本を忘れてはいけない。G委員は案の2を推すということによろしいか。

【G委員】

はい。統合案の1（5校案）に記載してある、道下小が単独で残るということへの反対意見とはどういうことなのか。名前が残るため、他の地区から「どうして道下小だけなのか。」という不満なのか。

【事務局】

道下小を改築した際、教育委員会で検討したところ、耐震補強等と改築費用では、それほど費用がかからないため改築に至った。しかし、一部では、「学校統廃合の問題があるのに、どうして道下小だけ改築したの。」という声もあった。そういった経緯もあり、直接聞いているわけではないが「不満が考えられる。」と表現させていただいた。

【D委員】

私も統合案の2（4校案）で良いと考える。

本江小学校改築では用地不要と記載してあるが、現在の場所で改築することなのか。だとすれば、上野方小学校校区の遠い場所の子どもたちは、スクールバスを考えているのか。

【F委員】

校区ごとに人数が示されているが、校区をさらに分析すると、児童数は一極集中していると思われる。例えば西布施小学校だが、小学校より山側に地区は4つあるが、児童数は0人である。布施爪地区に1人のみ。小学校児童の90%が蛇田地区から通学している。また、天神地区に関しても、片貝川下流域にたくさん児童がいる。そのため、経田小学校に通学している。そこから（片貝川下流域）吉島小学校に行くとなると3kmあるが、経田小学校へは1.6kmしかない。他の地域も分析していくと、一極集中しているのが分かると思われる。大町地区など町部では、児童数が多い少ないと分析しても、範囲は小さいからそれほど影響はないと思われるが、8号線より山側の地域を分析すると面白い結果が出てくるとと思われる。よって、全体数字ではなく、分布状況で考えると、

それほどスクールバスの対象となる児童は多くないものと思われる。

【会 長】

他にご意見はありませんか。

【B委員】

仮に統合が進んだ場合、校長先生は1人のままだと思われるが、教頭先生の人数は増えるのか。地区との繋がりがいろいろあり、教頭先生に対応してもらっているが、やり取り等が増えてくるとと思われるが。

【事務局】

現在の制度では増えることはない。

【B委員】

各地区の行事や会合への出席を求める場合もあるのだが。

【事務局】

教務主任なり、学年主任なりで分担して対応することになる。

【会 長】

この審議会では、統合案の2（4校案）への賛成意見が大勢を占めていると思うが、他に案があればお願いしたい。

【C委員】

私は「3校でも良いかな。」と思ったりしていたが、本日の会合で、4校で良いと感じている。先ほどA委員も述べられたが、スピードを持って進めていかなければならない。地域が割れると話が前に進まなくなる。10年なんてあっという間に経つ。方針が決まれば地域の賛同を得ることに集中してもらいたい。

【会 長】

先ほど、統合案の2（4校案）でも、違った組み合わせもありうるのではという意見もあった。第2回目の審議会としては、統合案の2をベースに進めていっても良いとしてよろしいか。

【F委員】

私は良いと思われる。

【会 長】

異議のある委員はいませんか。まだ決めかねている委員はいませんか。

【B委員】

順調に進んで、あと2回審議会が予定されているが、通学路の関係など、この後、まだ検討することはあるのか。

【事務局】

本日、審議会の意見として統合案がまとまれば、次回は通学圏内について、

例えば4kmの範囲を示し、それ以外はスクールバスでの対応となるであろう等、お知らせしたい。ただし、具体的に、この範囲はコミュニティーバスで、この範囲は空白地域については市単独のスクールバス等、詳細については難しいが、おおよそその範囲はお示ししたい。

【B委員】

では、松倉小学校、上中島小学校、住吉小学校が統合した新設校の具体的な建設場所も示されるのか。

【事務局】

具体的な場所については、提示する段階ではない。しかし、松倉小学校、上中島小学校からも近くなるように考えている。よって、新設の場合は、現住吉小学校校舎よりも山側に選定するだろうと考えている。

【会 長】

他の方、ご意見はありませんか。

【E委員】

地域の方から反対された場合、どのような対応をするのか。

【事務局】

地域に説明会に行った場合、昔から住んでおられる、ある程度、高齢の方々を中心に、どちらかというところと反対され、一方で、保護者の方は、子供たちのことを考えて学校統廃合を進めてほしいのだけど、なかなか声を上げることが出来ないという状況も考えられる。実際、これまでも同様の状況が多々あった。そこで、本当に地区の皆さんが反対なのか、あるいは、一部の人の声なのかを見極めながら、最終的には、審議会の答申を得て、教育委員会で決定する。理解を得ることを前提とし、実施年度も延ばすことなく、不転の決意を持って、協力を得ながら進めてまいりたい。

【会 長】

この会は、「審議会として、このような統合案でいかがですか。」と、教育委員会に呼びかけるもの。その後、教育委員会がその内容を検討し、最終的に決定することになる。

【G委員】

大町小学校は耐震化補強工事中である。統合案では、5年後の平成30年に本江小学校と統合することとなっている。統合後の小学校跡地利用についても地域の方に説明する予定なのか。また、既に利用計画は決まっているのか。

【事務局】

耐震補強後の施設について、どのように活用していくかは、検討のうえ、住

民に説明していかなければならない。学校は地区の中心拠点という歴史がある。おそらく、公民館の機能を集約したコミュニティー施設として活用し、さらに何が出来るかを検討していきたい。また、検討の結果、不要であれば、解体するということもある。説明会の場では、市長部局と共に市民の皆さんに示してまいりたい。

【事務局】

耐震化補強事業についてだが、**配布資料8**の大町小学校の学校視察の感想の中で、「多人数の学校で未実施のところもあり、順番に疑義を感じた。」とある。「5年6年先に学校統廃合という問題がありながら、耐震化を進めるのはいかなものか。」という意見もある中、教育委員会としては、東日本大震災を受けて、災害はいつ起こるか分からないということを前提に進めている。また、(文部科学省からの通知を受けて)全国的にも、平成27年度までに特段の理由がない限り耐震化が進められている。魚津市では地震が起きたときの倒壊の危険度が高いところから行っており、学校の大小で進めているのではないことをお伝えしたい。

【A委員】

耐震補強をした場合、学校跡地については、弾力的に使えるよう考えていただきたい。建物を残すと維持費がかかる。そこで、建物を有効活用するには、民間にも大きく門戸を広げてもらいたい。

【会 長】

本日の検討内容を振り返ると、この審議会としては、事務局が提示した学校統合案の2にある、4校に統合していくという案を中心に進めていくということで、委員の合意が得られたと考えてよろしいですか。

※委員より異議の発言はなし

では、次回の審議会では、統合案の2(4校案)を中心に、組み合わせや事務局から提示される通学区域の問題について検討していくこととします。

次回の審議会は、平成25年11月25日(月)19:00から開催することとします。これで第2回目の魚津市学校教育審議会を閉会させていただきます。皆さん、議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。